

いちようの葉

小川未明

青空文庫

幸ちゃんこうと、清ちゃんきよは、二つちがいでしたが、毎日まいにち仲よく
学校がっこうへゆきました。いつも幸ちゃんこうが迎えむかにきたのです。

「もう、幸ちゃんこうが、迎えむかにくる時じ分ぶんだから。」と、清ちゃんきよは、
早くはやご飯はんを食たべて、机つくえの上うえの本ほんや、筆ふで入れいをランドセルいに入れま
した。すると、

「清ちゃんきよ。」と、いって、はたして、幸ちゃんこうが、迎えむかにきま
した。

「いますぐ、待まっていてね。」と、いうより早くはや、清ちゃんきよは、
家いえから駆かけ出だして、二人ふたりは、話はなしながら、学が校こうへいっただのであ
ります。

ある日、いつも幸ちゃんがかかる時分なのに、どうしたのか、こ
なかつたから、清ちゃんはこちらから、幸ちゃんの家へ迎えにゆ
きました。すると、幸ちゃんは、かぜをひいて、昨夜から熱が高
くて、床についているのでした。

「じきなおりますから迎えにきてくださいね。」と、幸ちゃんの
お母さんはおつしやいました。

清ちゃんは、独りさびしく学校へいったのです。しかし幸ち
やんのことが気にかかつて、いつものように、なにをして遊んで
も、愉快になりませんでした。

いつもなら、帰りにも待ち合わせて幸ちゃんといっしょにお家
へ帰ったのですけど、その日ばかりはさびしく一人で帰らなけれ

ばなりませんでした。

お寺てらの前まえを通とおると、大おおきないちようの木きの葉はが黄きいろ色いろに色いろづいて、風かぜの吹ふくたびにひらひらと舞まつて落おちてききました。清きよちゃんは、ひとりひとり 門もんから入はいつて、落おちている美うつくしい葉はを拾ひろいますと、それにまじつて、いちようの実みも落おちていました。

「あ、これも拾ひろつていつて、幸こうちゃんにあげよう。」と、いつて、清きよちゃんは、拾ひろいました。そして、お家うちへ帰かえると、さつそく、幸こうちゃんのところへ持もつてゆきました。これを見みて、幸こうちゃんは、どんなよろこに喜よろこんだでありますよう。

「僕ぼく、お薬くすりを飲のんだら、熱ねつが下さがったのだよ。明日あすから、また、学がっこう校がっこうへいっしょにゆこうね。」といいました。

「そうしたら、また、帰りにお寺の中へ入ってみようよ。」と、清ちゃんきよは、いつて、二人ふたりで、いちようの実みや、それから、裏うらの林はやしなの中に入はいつてくりの実みを拾ひろつたらどんなにおもしろかろうと考かんがえたのです。

「風かぜが吹ふかないから、明日あすは、落おちていないかもしれぬ。」と、幸こうちやんがいました。

「風かぜが吹ふかなくても、落おちているよ。」と、清きよちゃんちゃんは、このごろ、木きの実みがよく熟じゆくして、ひとりひとりでに落おちるのを知しっていました。それに、あの村むらはずれのお寺てらは、荒あれはてだれも境けい内だいを掃はくものがなければ、一日いちにちじゆう、御堂おどうの戸とが閉しまっていることことを思おもったのであります。

「じゃ、帰りに、いっしょにいつて探そうね。」と、二人は、お約束やくそくをしました。

こんなように、小学校時分の二人は、楽しかったのです。そのうち幸ちゃんこうちゃんは、学校を卒業そつぎょうしました。それから、まもなく、奉公ほうこうに都会とかいへ出てしまいました。学校へゆくにも、帰るにも、一人ひとりとなった清ちゃんきよちゃんは、さびしかったです。そのうち夏なつも過ぎすで、また木の葉きはの色いろづく秋あきがきました。

「いつか、幸ちゃんこうちゃんが、かぜをひいて休んだとき、僕ぼく、学校の帰りに、いちようの葉はを拾ひろっていったことがあったがなあ。」と、清ちゃんきよちゃんは、思い出おもしたのであります。あときは、たった一日いちにち、一人ひとりでいつてさえ悲かなしかったのにいまは、いつまたあうことがで

きるかわからないのだと思ひました。ある日清ちゃん、学校からの帰りにお寺の前を通ると、いちようの葉がたくさん落ちていました。そして、寺は、昔そのままにひっそりとして人の姿も見えなければ、ただ、林の中で、小鳥が鳴いていました。清ちゃん、門を入れて、大きないちようの木の下で、落ち葉を拾って、お家へ帰ると、それを入れて、幸ちゃんのところへ、手紙を出しました。

「幸ちゃん、ご健康で働いていますか、村のお寺のいちようの木が、はや、こんなに色づきました。いつか、君といっしょに拾って、楽しかった日のことを僕は、ここを通るたびに思い出しています。」と、その手紙には、書いてありました。すると、

幸ちゃんからもじきに返事がきました。それは美しい、町の絵は
 がきに、

「清ちゃんも、お達者でなによりです。私は、変わりなく働いて
 いますから、ご安心してください。このごろ、毎晩、田舎
 の夢を見ます。昨夜も清ちゃんと遊んだ夢を見ました。」と、書
 いてありました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 10」講談社

1977（昭和52）年8月10日第1刷

1983（昭和58）年1月19日第6刷

初出：「台湾日日新報」

1935（昭和10）年10月10日

※表題は底本では、「いちよしの葉《は》」となっています。

※初出時の表題は「銀杏の葉」です。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕二

2015年5月24日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

いちよしの葉

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>